

おもしろ にいがた学

新潟方言・郷土史研究家 大田 朋子

プロフィール

新潟市出身（出生地は柏崎市）
東京で大学・研究室生活を経てUターン
雑誌記者、コピーライター、ライター、インタビュアーの仕事をするうちに、方言や習俗、歴史に魅せられ、研究、普及につとめる
心理学・新潟学等講師、経営学修士（MBA）
著書「独断大田流にいがた弁講座」（新潟日報事業社）
「おもしろ えちご塾」（恒文社）等

「新潟 名字 読み方考」

知り合いに「甲川」さん（本人秘密保護で一字仮名）がいます。今まで当人も周りも「コウガワ」と言っていたと思うのですが、いつからか本人のみ「コウカワです」と濁らず名のようになりました。

「いったいどっちなのだね？」と聞きたい気持ちを抑え、ある時思いきって「コウガワさんですか？」と濁音強めに電話してみました。すると「はい、コウカワです」となにやら勿体ぶって仰せになりました。まさか、「改名したのですか？それとも（新潟では、シオノコ、フクラゲ、ツバイソ、イナダ等々と成長するにつれて呼び名が変わる）出世魚のブリみたいな『出世名字』だったのですか？」とわざわざ聞くのも大人げないのでそっとおきましたが、気になるものは気になります。甲川姓（一字仮名）は、新潟のある地域では比較的目にする名字で、「コウガワ」とほとんどが濁って名のっています。

県内を流れる川も、信濃川（がわ）、阿賀野川（がわ）・・・、というように〇〇川の読みは「がわ！」が自然の流れに聞こえます。「しなのかわ、あかのかわ」では、いまひとつ流れに迫力がありません。（最初からコウカワさんの方、ごめんなさい）しかし、ガワかカワか、濁るか濁らないかは気になります。

そういえば、県内に多いといわれる「五十嵐」姓、こちらも「いからし」さん、「いがらし」さんの両方の読みがありますが、おおむね県内では「いからし」の清音読みが多いといわれています。無論、五十嵐姓ゆかりの五十嵐川（旧下田・現三条）もその読みで、川は「がわ」と読めども姓は濁らざること清流の如し。昔々の大昔、五十日足彦命（いかたらしひこのみこと）が開拓したこの地の名称は、豊作の象徴でもある「五風十雨」から

来ているといわれ、本県発祥名です。県外で、五十嵐姓に会ったら「いからしですて！」と名のれば新潟出身、「いがらしですたい！」と名のれば県外人でほぼ間違いなし。（例外あり）

さて、この五十嵐姓のように、県内ならではの読み方をする名字がいくつかあります。筆者の周囲では、大平さんは県内では「おおだいら」さんで、県外は「おおひら」さん、小柳さんは、県内「おやなぎ」さん、県外「こやなぎ」さん、坂上さんは県内「さかうえ」さん、県外「さかがみ」さん、と、100パーセントではありませんが、だいたい当てはまります。（こちらも例外あり）

渡部姓もこれまた「わたべ」（新潟が多い）に「わたなべ」、近姓も「こん」（阿賀北が多い）と「ちか」（新潟市にみられる）、三谷姓は「みたに」（新潟が多い）と「みつや」、山谷姓は、「やまたに」（新潟が多い）「やまや」の両人がいらっしやいます。（敬称略、しつこいけれどこちらも例外あり）

地名には、その土地特有の読み方をする「方言地名」があるように、名字にもその土地ならではの読みがあるのも興味深いことです。それにしても気になる名字、コウガワさん、皆さんの周りはいかがですか？あっ、そうそう名字といえば、私の大田は、太田ではありませんのでよろしくお願いたしますよ。

※なお、「名字」と「苗字」の両表記がありますが、当稿では「名字」とします。当稿名字の読みについては『日本名字家系大辞典』を参照し、筆者の周囲調査によるもので絶対的なものではありません。

